

<<招待発表>> (9月4日 11:10-11:40)

【8号館4F 843教室】

社会人日本語非母語話者による職場での日本語ライティングに関する内省
—日本留学経験者のビジネスパーソン・研究員への調査から—

村岡 貴子

本研究の目的は、日本の大学院留学生向けアカデミック・ライティング(以下AW)教育が、在学中に加え、学位取得後も職場で円滑なコミュニケーションを行うために有用となる要素を明らかにすることである。本発表では、元留学生の社会人日本語非母語話者に対するインタビュー調査の結果を分析し、AW教育への示唆を求めた。協力者は日本で修士号あるいは博士号を取得し、内外の企業でのビジネスパーソンか大学研究員として5年以上の日本語を用いた勤務経験を持つ4名である。分析対象とした場面は、日常的な電子メール使用、通訳・翻訳業務関連での文書作成、および他者が経験した誤解や対立した状況への介入などである。各場面で協力者が想起したAW経験や、判断や行動の状況を示す文字化データから、各人による場面の巨視的・メタ的な捉え方や、対人関係・文章ジャンルを峻別した書記言語活用について分析し、AW教育的課題についての知見を示す。

<<招待発表>> (9月4日11:10-11:40)

【8号館4F 844教室】

養育者-子ども間相互行為における三者関係の枠組みを用いた行為指示連鎖

高田 明

言語人類学から派生してきた言語的社会化論は、さまざまな文化的集団において文化過程が人々を創造し、人々が文化過程を創造するという相互構成的な関係の諸相を明らかにしつつある。本発表では、こうしたパースペクティブから発表者らが推進してきた日本における養育者-子ども間相互行為に関する研究の成果を紹介する。私たちのデータによれば、養育者と子どもの相互行為においては、その子ども以外の第三者が参与枠組みに導入されることが多い。第三者としては、おもちゃ、動物、胎児など多様なものが選ばれうる。養育者はしばしば、この三者関係の枠組みを用いて間接的に子どもに行為指示を行う。これによって養育者は、子どもの体面をあまり脅かさずに望ましい行為を引き出すことが可能になる。さらに、こうした方略が提供する文脈に応じて、養育者と子どもはしばしば「結果的」に文化的に特徴的な行為を産出する(e.g., 「思いやり」の実践)。

<<招待発表>> (9月4日11:10-11:40)
【8号館5F 852教室】

国会審議映像検索システムの社会言語学的応用について

松田 謙次郎

国会会議録は、現代日本語の貴重なデータとして日本語研究者に広く使われてきている(松田 2008, 南部 2007, 服部2011, 佐野 2011)。ただし国会発言の実際の音声を聞くには、NHKによる一部の審議中継を視聴するか、衆参両院公式サイトによる中継録画を利用するかいずれかの方法しかなく、データ収集に膨大な手間と時間を要するという欠点があった。国会審議映像検索システムは、ごく一部とは言え国会審議動画について使用語句での検索を可能にした画期的なシステムである。このシステムは、web上で実際の音声の聴取にとどまらず、発言時の原稿読みの有無、発言者のジェスチャーの確認までを可能としている点で、現代日本語研究者にとっては貴重なツールを提供するものである。本発表では、「場合」の発音分析を例に取りつつ国会審議映像検索システムを紹介し、このシステムの社会言語学研究への応用について論じる。